

2013年4月26日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

東証・大証・名証第一部

## 野村ホールディングス、2013年3月期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二)は、本日、2013年3月期(以下「当期」)の通期ならびに第4四半期(2013年1-3月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当期の収益合計(金融費用控除後)は18,136億円、税前利益は2,377億円、同社株主に帰属する当期純利益は1,072億円であった。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は6,536億円、税前利益は1,697億円、同社株主に帰属する当四半期純利益は824億円となった。

同社グループCEOの永井浩二は、以下のとおりコメントした。

「第4四半期は、前四半期に続いて3ビジネス部門すべてで税前黒字を計上した。グループ全体の税前利益と当期純利益は、2006年3月期第4四半期以来の高水準となった。通期においても、下半期の収益増加に加え、コスト削減やリスク資産の圧縮が利益水準を押し上げ、大幅な増益となった。

営業部門は、コンサルティング営業の継続により、預かり資産や総募集買付が増加し、大幅な増収となった。アセット・マネジメント部門は、商品ラインナップの拡充等により安定的に収益を計上した。ホールセール部門は、フィクスト・インカムが引き続き収益を牽引し、日本におけるビジネス環境の回復もあり、増収となった。

当社は、今後もコスト削減を着実に実行し、継続的に安定した利益を計上できるよう努めていく。『すべてはお客様のために』という基本観に立ち、『アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ』として、付加価値の高いソリューションの提供を通じ、社会の発展に貢献していく。」

2013年3月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2013年6月3日)は、1株あたり6円とする。これによって、2013年3月期の配当額は1株あたり年間8円となる。

当期決算のポイント

当期決算のハイライトは以下のとおり。

	2013年3月期 第4四半期	前四半期比	前年同期比	2013年3月期 通期	前年比
収益合計 (金融費用控除後)	6,536億円	+68%	+31%	18,136億円	+18%
税前利益	1,697億円	13.1X	+179%	2,377億円	+180%
純利益	824億円	4.1X	3.7X	1,072億円	9.3X

- 通期の収益は前年比 18%増の 18,136 億円、税前利益は前年比 180%増の 2,377 億円、当期純利益は 1,072 億円と、大幅な増収・増益となった。中でも当四半期は、好調な営業部門に加えて野村不動産ホールディングス株式の売出し等による一時利益が全社利益に貢献し、税前利益と当期純利益が 2006 年 3 月期第 4 四半期以来の高水準となった。
- 営業部門はコンサルティング営業が定着し、市況の好転も追い風となって下期の業績が大幅に回復した。
- アセット・マネジメント部門は安定的に運用資産残高を拡大して前年比増収増益となった。
- ホールセール部門はフィクスト・インカムが収益を牽引し、エクイティとインベストメント・バンキングも共に前年並みの収益を計上した。
- 2013 年 3 月末における速報値で、連結自己資本規制比率は 13.8%、Tier 1 比率は 11.7% (バーゼル 3 基準)。2013 年 3 月末現在の B/S の資産合計は 37.9 兆円、株主資本は 2.3 兆円、グロスレバレッジは 16.5 倍、調整後レバレッジは 10.4 倍である。

### 当四半期の各部門の状況

#### ● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は1,387億円、税前利益は572億円であった。新しい業務系基幹システムに付随して費用が約50億円増加したが、税前利益は2006年3月期第3四半期以来の高水準となった。

株式市場の活況を背景にエクイティ関連プロダクトが大幅に伸長し、総募集買付金額は前四半期比69%増加した。顧客資産残高も83.8兆円と、前四半期から10兆円以上増加した。

	2013年3月期 第4四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	138.7	+45%	+50%
税前利益	57.2	+182%	+182%

#### ● アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の収益合計は183億円、税前利益は39億円であった。

保有資産の評価見直しにより一時費用等を計上したため前四半期比で減益となったが、運用資産残高は前四半期比10%増加し、成功報酬・配当収入等があった前四半期と同水準の収益を確保した。

投資信託ビジネスでは、投資家のリスク許容度が向上し、日本株・高配当株投信を中心に資金が流入した。投資顧問ビジネスでも、引き続き多様なプロダクトの運用マンドートを獲得、運用資産残高は市況の改善もあり前四半期比10%増の27.9兆円となった。

	2013年3月期 第4四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	18.3	-3%	+16%
税前利益	3.9	-46%	-5%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益は1,969億円、税前利益は357億円であった。

- グローバル・マーケットは、フィクスト・インカムが引き続き高水準の収益を維持、エクイティは収益が大きく改善した。
  - ✓ フィクスト・インカムは、マクロ環境の変化を受けて日本ビジネスが堅調であった。海外は前四半期比で減速となったものの、顧客フロー収益は全地域で伸長し、前年比では着実に収益規模が拡大している。
  - ✓ エクイティは日本を中心に主要株式市場の売買代金が回復し、顧客フロー収益は 37%増加した。主要株式市場の好調に伴い、トレーディングも好調であった。
- インvestment・バンキングは、日本では REIT 等の ECM 案件や大型 DCM 案件が収益を牽引し、グロスで過去 8 四半期最高の収益を計上した。海外も、全般的に収益機会が減少する中で、注力する金融機関やフィナンシャル・スポンサーを中心に M&A やソリューションなど幅広いビジネスを獲得し、米州ではレバレッジド・ファイナンスの収益が前四半期に引き続き伸びている。

	2013年3月期 第4四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	196.9	+4%	+24%
税前利益	35.7	-20%	3.0X

以上

詳細につきましては、当社ホームページ (<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>) にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2013年4月26日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ (<http://www.nomura.com/jp/>) を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2013年3月期通期ならびに第4四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2013年4月26日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。